

僕たちが地域の小中学校で行っている発達障がい理解のための訪問授業「発達障がいってなあ〜に？」の中にも仲良くなる時のポイントとして「視覚的・具体的・肯定的」が出て来ます。確かに「視覚的」が解りやすいという意味ではみんな一緒なんだよ？って伝えてます。視覚的にする事は皆が解りやすいんですよ〜と。今回のお話の続き・・・とっても気になりますねえ。楽しみです☆ 久田

第 70 回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

視覚的支援がなぜ有効なのか考えてみよう

自閉症スペクトラムなど発達障害がある人に対して、視覚的な支援をすることが重要であり、有効であるという話はよく聞きます。学校現場でも福祉の現場でも同じように言われ、視覚的支援が実践されている光景はよく見るものです。教育や福祉の現場で浸透してきたことがよくわかります。

以前、視覚的支援を実際に取り入れて療育している現場に行っては、視覚的支援についていろいろ質問したことがあります。

「なぜ、この学校では視覚的な支援が多く使われているのですか」と。するとその理由は、「自閉症スペクトラムなど発達障害のある人は視覚優位だから」という答えがほとんどでした。

私も研修会に参加することがあるのですが、そこでも様々な講師が、「自閉症スペクトラムなど発達障害がある人は、視覚優位なので、それゆえ、視覚的支援が有効なのです」と話すのも何度も聞いてきました。

講師の先生に「その根拠は何なのですか」と尋ねても、いろいろな答えが返ってはくるのですが、はっきりとした根拠が示されたことはこれまでにないのです。

聴覚からの情報処理に比べて視覚からの情報処理が優位だというのは、何も自閉症スペクトラムなど発達障害のある人に限ったものではありません。「百聞は一見に如かず」という諺が示すことから明らかなように、視覚に障害がなければ、口頭で言われるよりも視覚的な情報がある方がわかりやすいことは言うまでもないことだからです。

そこで、ここでは、自閉症スペクトラムなどの発達障害のある人たちにとって、視覚的支援が特に必要なのはなぜなのかということを考えていきたいと思います。

しばらくお付き合いいただければと思います。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里） クラスルームコミュニケーション（こころりす出版会） 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など